

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】令和2年8月13日(2020.8.13)

【公開番号】特開2020-99388(P2020-99388A)
 【公開日】令和2年7月2日(2020.7.2)
 【年通号数】公開・登録公報2020-026
 【出願番号】特願2018-237919(P2018-237919)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和2年5月28日(2020.5.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、
 動作可能な可動物と、

遊技媒体が進入容易な第1状態と、遊技媒体が進入困難な第2状態とに変化可能な可変手段と

前記可変手段に遊技媒体が進入したことを報知する報知演出を実行可能な報知演出実行手段と、

を備え、

前記可変手段は、少なくとも第1変化パターンと第2変化パターンとを含む複数の変化パターンのいずれかによって前記第1状態と前記第2状態とに変化可能であり、

前記可動物は、前記可変手段が前記第1変化パターンで変化する場合と、前記可変手段が前記第2変化パターンで変化する場合とで、異なる態様で動作可能である、

ことを特徴とする遊技機。

【請求項2】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、

動作可能な可動物と、

遊技媒体が進入容易な第1状態と、遊技媒体が進入困難な第2状態とに変化可能な可変手段と

前記可変手段に遊技媒体が進入したことを報知する報知演出を実行可能な報知演出実行手段と、

を備え、

前記可変手段は、少なくとも第1変化パターンと第2変化パターンとを含む複数の変化パターンのいずれかによって前記第1状態と前記第2状態とに変化可能であり、

前記可動物は、前記可変手段が前記第1変化パターンで変化する場合に動作せず、前記可変手段が前記第2変化パターンで変化する場合に動作可能である、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

(1) 上記目的を達成するため、本願発明に係る遊技機は、遊技を行うことが可能な遊技機であって（例えば、遊技を行うことが可能なパチンコ遊技機1等）、動作可能な可動物と（例えば、動作可能な画像表示装置5等）、遊技媒体が進入容易な第1状態と、遊技媒体が進入困難な第2状態とに変化可能な可変手段と（例えば、遊技球が入賞容易な開状態と、遊技球が入賞困難な閉状態とに変化可能な特殊可変入賞球装置17等）、前記可変手段に遊技媒体が進入したことを報知する報知演出を実行可能な報知演出実行手段と、を備え、前記可変手段は、少なくとも第1変化パターンと第2変化パターンとを含む複数の変化パターンのいずれかによって前記第1状態と前記第2状態とに変化可能であり（例えば、特殊可変入賞球装置17は、開放時間が200msで開放回数が8回の第1小当り時の変化パターンと、開放時間が200msで開放回数が4回の第2小当り時の変化パターンとのいずれかによって開状態と閉状態とに変化可能である等）、前記可動物は、前記可変手段が前記第1変化パターンで変化する場合と、前記可変手段が前記第2変化パターンで変化する場合とで、異なる態様で動作可能である（例えば、画像表示装置5は、特殊可変入賞球装置17が第1小当り時の変化パターンで変化する場合と、特殊可変入賞球装置17が第2小当り時の変化パターンで変化する場合とで、異なる態様で動作可能である等）。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

(2) 上記目的を達成するため、本願発明に係る遊技機は、遊技を行うことが可能な遊技機であって（例えば、遊技を行うことが可能なパチンコ遊技機1等）、動作可能な可動物と（例えば、動作可能な画像表示装置5等）、遊技媒体が進入容易な第1状態と、遊技媒体が進入困難な第2状態とに変化可能な可変手段と（例えば、遊技球が入賞容易な開状態と、遊技球が入賞困難な閉状態とに変化可能な特殊可変入賞球装置17等）、前記可変手段に遊技媒体が進入したことを報知する報知演出を実行可能な報知演出実行手段と、を備え、前記可変手段は、少なくとも第1変化パターンと第2変化パターンとを含む複数の変化パターンのいずれかによって前記第1状態と前記第2状態とに変化可能であり（例えば、特殊可変入賞球装置17は、開放時間が200msで開放回数が8回の第1小当り時の変化パターンと、開放時間が200msで開放回数が4回の第2小当り時の変化パターンとのいずれかによって開状態と閉状態とに変化可能である等）、前記可動物は、前記可変手段が前記第1変化パターンで変化する場合に動作せず、前記可変手段が前記第2変化パターンで変化する場合に動作可能である（例えば、画像表示装置5は、特殊可変入賞球装置17が第1小当り時の変化パターンで変化する場合には動作せず、特殊可変入賞球装置17が第2小当り時の変化パターンで動作する場合に動作可能である等）。